

中国古典、ギリシア哲学、キリスト教

——新井奥邃の霊覚と間テクスト性（索引）

1 肉体、霊体、三天について——奥邃のコスモロジー

扱人は自ら知らざる間は格別其貴重なる所以を知らざれども、我々箇人も亦只此の世に生るゝの日に於て生るゝ者に非ずして、遠き先より生存せるものなり。今肉体の方に非ずして霊体の方を云はんに、神より降れる此の智と愛と能とを具する霊体の本性は元来種子の如くに遠く肉体未有の先に三天を経歴して生存す。謂ゆる三天とは、実践の天、霊覚の天、上天の天、是れ也。実践の天は能の天なり。霊覚の天は其上にありて智の天也。而して天の天は愛の天也。此の愛の天は神より始まる最初のものに属す。其より霊覚の天と実践の天とを経て自然界に来る。

〔新井奥邃著作集〕第二卷、三一九―三二〇頁）

cf. マタイ一三「種を蒔く人のたとえ」、マルコ四、ルカ八

2 天の誠、在天の父母

又、余が「説く所数千言其要は静に居て善に動くを謂ふに在らざるか、更に之を約せば、結局誠の一に帰せざるか」と問はる。若し能く「誠」の意を得ば、則ち將に答へて然りと曰はんとす。然るに夫れ誠とは何ぞや。其人に在る者を以て言へば、其霊体身体の善動なり。乃ち之を誠にするの誠なり。天の誠は真実真有の誠にして、即ち神なり、真人なり。之を在天の父母と我儕呼び奉る。

〔新井奥邃著作集〕第四卷、四二八頁）

cf. 『孟子』離婁上「誠は天の道なり」、諸橋轍次『誠は天の道』、『老子』三九、新渡戸稲造『武士道』、ヨハネ七・三八「わたしを信じる者は、……その腹から生ける水が川となつて流れ出るであろう」、エゼキエル四七・一「神殿から流れる水」

3 ソクラテス、プラトン

善く信ずる者は却て偽宣者の所謂異教人の中に在り、吾儕未だプラト、ソクラテスの精神果してアブラハムの前に在りしや否やを知らずと雖、彼等は一の純然たるクリスチアンなるを知る、彼等は一大統一の道を時に応じて講ずる者なればなり、美を尊び清を貴ぶ者なればなり、

〔新井奥邃著作集〕第八卷、三二六頁）